

3月～4月のりた

なごみん 4/17



なごみんフェスタ2016

年に一度の市民活動の祭典。体験・ステージ発表・展示・バザーなどを通して、様々な活動団体が交流しました。

やはぎかん 3/6



やはぎかん 8周年春まつり

発表や体験・展示、販売を通して、参加団体の活動を広く知っていただき、新しい活動や仲間を見つける機会を提供しました。

まち育て推進チーム 3/12



岡崎百景候補 お披露目会

岡崎のそこかしこに潜むとっておきの「私とまちのドラマ」を集めた岡崎百景の候補をお披露目しました。

5月～6月のりた

- 時 開催時間
- 所 開催場所
- ¥ 参加費用
- 定 定員（選定方法）
- 対 参加対象
- 申 参加方法
- 持 持ち物
- 該当テーマ

よりなん 59-3600

防災

6/12 防災フェア

応急担架およびロープ結び体験、AED講習、防災展示など地震に備えるための体験型イベントです。どなたでもご参加いただけます。

- 時 10:00～12:00
- ¥ 無料
- 所 よりなん
- 申 直接よりなんにお越しください。

やはぎかん 33-3665

景観

5/8 矢作の魅力発見！ まち歩き

やはぎかん～誓願寺～矢作神社を歩きます。各自マップを手に、見つけたことをメモしていきます。

- 時 9:00～12:00
- ¥ 無料
- 所 やはぎかん1階交流スペースに集合（説明後、まち歩きに出発します）
- 持 飲み物・筆記具・タオル
- 申 5/6までにやはぎかん窓口・電話・FAXにて申込み

むらさきかん 66-3066

景観

5/14 むらさき麦まつり

毎年、むらさき麦の穂がなびく頃に開催される藤川宿の魅力発信イベント。藤川まちづくり協議会との共催事業です。

- 時 10:00～15:00
- ¥ 無料
- 所 藤川宿一帯（本陣跡広場、米屋、むらさきかん、道の駅藤川宿など）
- 申 直接会場にお越しください。

悠紀の里 57-5050

マッチング

6/5 お田植えみんなでアート （お田植えまつり 協賛イベント）

悠紀の里のガラス面に、①水性絵の具と②紙のステンドグラスの大きな作品を作ります。※作品の持ち帰りはできません。

- 時 11:00～15:30（雨天決行）
- ¥ 無料
- 所 悠紀の里 交流スペース
- 対 ①幼児～（小2以下保護者同伴）
②幼児～（はさみを安全に使用できる方）
- 定 ①15名程度 ②20名程度
- 申 5/10～5/31 悠紀の里にて申込み

まち育て推進チーム 23-2888

景観

岡崎百景～私とまちの100のドラマ～ 市民投票展示会

市制100周年を記念して選ばれる「岡崎百景」の候補122点を展示し、皆さんに投票していただきます。

- 5/19～5/23 所 りぶら
- 5/24～5/29 所 悠紀の里
- 5/31～6/5 所 なごみん
- 6/7～6/12 所 やはぎかん
- 6/14～6/19 所 むらさきかん
- 6/21～6/26 所 よりなん
- 7/1～7/3 所 中総体育館（おかざき100年祭）
- 7/6～7/31 所 岡崎市美術館第6展示室

まちのミカタ

Litaracy

（りたらしい）

80

2016年5月

特集： まち育てスクール開講 ～単独コース記録～

まちづくりの担い手として「協働」実践者を育てるべく、協働ノウハウが学べる「まち育てスクール」を連続コース、単独コース各3回、計6回にわたって開講しました。3回のAコース（連続コース）に続き、協働の実例から協働のイメージを膨らませるBコース（単独コース）を3回開催しました。Bコースでは具体的な協働ノウハウではなく、「福祉」、「歴史」、「防災」というテーマごとに「協働」がいかに機能するのか、その重要性や可能性について探っていきました。今号ではその内容を要約したものをご紹介します。



▲ Bコース「歴史と協働」編にて講師の話に熱心に耳を傾ける受講者のみなさん。まち歩きをしながら地域の景観資源の重要性についてあらためて認識し、それらを遺していくためにはどうすべきかを考えた。

まちのミカタ

Litaracy

2016.5 vol.80

発行・編集

特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0072 岡崎市六供町字杉本78-1
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com
https://www.facebook.com/okazaki.lita

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかざき/杉くんの駄菓子屋/angelshare/
コミュニティ・ユース・バンクmomo/cafeくらがり/
CAFE&TABIBOOKS隠れ家/長嘗館/松應寺

特集：まち育てスクール開講 ～単独コース 記録～

単独コース第1回目は「松本町のにぎわい創出と、高齢者の暮らしの支援」や「島坂かのりクラブの取り組み」の話題提供から、高齢者福祉と協働について考えました。第2回目はおかざき塾歴史教室講師の市橋章男氏を講師に迎え、岩津を中心に北部地域の歴史を学び、魅力ある歴史や景観を活用したり遺していくための活動を協働の観点から考えました。第3回目は愛知県社協ボランティアセンター運営委員長の鈴木盈宏氏を講師に迎え、南海トラフ地震などの大規模災害に対する自助・共助の必要性を学び、地域防災における地域課題の道筋を意見交換しながら一緒に考えました。それぞれの会の要約とポイントをご紹介します。

B (単独) コース ① ～福祉と協働～

少子高齢化が叫ばれる昨今、地域福祉の重要性は高まるばかりです。岡崎市において地域の福祉活動を地域住民自らがやっている事例二つをそれぞれご紹介いただき、ディスカッションも交えながら地域の福祉について参加者とともに考えました。

●事例紹介「松應寺横丁まちづくり協議会」 松應寺横丁まちづくり協議会 天野 裕氏



※詳細はりたらしい77号参照
地域の高齢者、空き家を資源ととらえ、活かしていくことを目的に活動しています。一方的な支援ではなく、互いに活躍できることを大切にしていますので、「やらねば!」という気持ちよりも、「やりたい!楽しい!」を基本に活動しています。

が楽になることだとも思い、20年以上地域の人たちと楽しめるお祭りやイベントを開催し、地域の絆を深める活動を続けてきました。活動にあたっては地域資源を活用し、なるべくお金をかけないで、各々できることから自発的に行っています。ですから、やりたくないことはしませんし、助成金がなければできないこともやりません。イベントを重ね場を共有し、楽しい時間を共に過ごすことで次第に人を巻き込んでいくことができます。それぞれが得意なことで協力し、提案されたアイデアは尊重するようにしています。



●事例紹介「島坂かのりクラブ」 島坂かのりクラブ 鈴木 忍さん

私が目指しているのは心身ともに健やかで、気分よく暮らせる地域です。地域には様々な課題がありますが、それぞれが思いやり、助け合うことで解決できることがたくさんあると思います。また、住みよい地域をつくるのは嫁であり母である私自身

協働ポイント

- ①地域福祉は「楽しい!」を基本に大きく育てていく。
- ②それぞれが得意を活かし、支え合える場をどう作ることがカギになる。

協働のテキスト「協働読本」ができました。

協働の担い手育成のために昨年度実施した「まち育てスクール」。そのエッセンスをまとめ、冊子にしました。実際の協働ノウハウや、協働イメージが高まる内容になっていますので、ぜひご覧ください。ウェブからPDFデータでご覧いただくか、印刷されたものはお近くの地域交流センターまたは、りぶら市民活動センターで配布しています。

▼WEB閲覧用PDF

<http://bit.ly/1YyY11Y>

▼印刷用PDF(A3両面短辺綴じ印刷)

<http://bit.ly/1W5NV9O>



B (単独) コース ② ～歴史と協働～

他地域の事例紹介と地元(岩津地域)の歴史解説、史跡探検から、地域の景観がいかにかけがえないものであるかを実感していただき、歴史・景観の維持・継承における協働の重要性をお伝えしました。

●講演「歴史資源を生かしたまちづくり」 岡崎まち育てセンター・りた 事務局次長 三矢 勝司



ポロポロだった土蔵を今は、街角博物館(ギャラリーや学習会)として活用。

千葉県印西市の取り組みを二つご紹介いたします。一つは小林地区で、専門家を招いた講演会、ワークショップ、まち歩きから地域の魅力を再確認したところ、荒れ果てた古墳群の環境整備を市民自ら行う活動に発展しました。もう一つは木下地区での事例で、ポロポロになった土蔵を、市民だけでなく、多様な主体(大学や学生、大工、行政など)が協働し、ギャラリーや学習会に活用できる街角博物館として見事に再生しました。あなたの地域に眠る資源はなんですか?

●講演「家康公の祖先は岩津を岡崎の中心にした」 おかざき塾歴史教室 主宰 市橋 章男氏

家康の先祖である松平氏は三代信光の時代に豊田市松平郷から岩津に移り住みました。当時武士にとって寺を建立す



ることは権力の象徴であったことから、この岩津地域には大変貴重な史跡が点在しています。京都の「妙心寺」と寺名交換した「円福寺」や、見事な屋根のせり出しをもつ日本最古の本堂「観音寺」がある「信光明寺(国重文)」などです。しかしながらこうした重要文化財は文化財保護法によって維持が義務付けられており、80%は自治体が維持費を負担してくれますが、残り20%は所有者が負担しなければならず、個人が維持していくのは大変困難です。地域が一体となって守っていかねばなりません。



協働ポイント

歴史・景観は地域のみんで守るもの。
その一歩は知ること、愛着を持つことから。

B (単独) コース ③ ～防災と協働～

愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員長の鈴木盈宏氏に南海トラフ地震などの大規模災害が発生した場合の自助・共助の大切さをお話しいただいた後、地域防災のキーパーソンをお招きし、パネルディスカッションを行いました。

●講演「被災地から学んだ自助、共助の大切さ」 県社協ボランティアセンター運営委員長 鈴木 盈宏氏



日本の広範囲でM8クラスの地震が起きると言われており、それが起きた場合国民の1/3が被災するという被害予測も出ています。そうなったらこの岡崎はどこからの救援も期待できませんし、行政にも限界があります。そのため、地域での自助・共助こそ復興への近道です。ぜひ、過去の被災経験に学び、強い地域を皆さんでつくってください。

ている。家具転倒防止や、通電後の火災防止のための安心ブレーカーの普及も推進している。

杉浦: 災害弱者となりうる人の情報は持っているが、福祉委員会だけの救援は困難なので、有事の際は名簿を提供したい。ただ個人情報保護法が壁。
茂刈: 個人情報の問題があるので、自ら災害弱者登録してほしい。安否がすぐわかれば生存率が高まる。



●地域防災パネルディスカッション

防災危機管理課 田中さん、総代会長 夏目さん、福祉委員長 杉浦さん、民生児童委員 茂刈さん

田中: 行政には限界がある。連絡系統などを決めておいていただき、学区の情報は学区で集約して行政に伝えてほしい。また学区にある防災倉庫に何があるか知っておいてほしい。
夏目: 防災防犯協会として防災備品の整備や訓練を実施し

協働ポイント

- ①日頃から家庭で災害リスク対策をしておく。
- ②地域役員だけでなく、みなで助け合う意識を育てる。
- ③個人情報保護法などの災害救援の壁をあらかじめ把握しておき、体制を考える。
- ④日頃からの「向こう三軒」両隣の精神が大事。